

# 会報

No. 116

令和2 (2020) . 3. 1

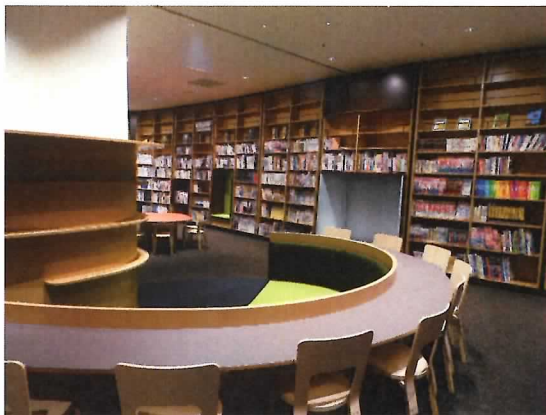
## 「神戸市立北神図書館の開館について」

神戸市立中央図書館 村井博之

北神分館は、北図書館の分館として平成7年12月に開館し、その後拡張工事などを経て地元の方々を中心に親しまれてきました。

平成29年、北神分館に隣接する商業施設エコー・リラのリニューアルにあわせ、南館4階に図書館を移転させるという計画が持ち上がりました。平成31年春のエコー・リラのリニューアルオープンまで時間のない中での整備となりました。その際、それまでの北図書館北神分館という位置づけではなく、北神図書館として独立させ、館長を置くことに決定しました。

床面積は北神分館の931㎡から1,320㎡と広くなり、蔵書数も北神分館の約10万冊から約12万冊へと増やすこととなり、それに見合った収容能力が求められるのと同時に、デザイン性に富んだ、ゆとりのある空間づくりも求められました。



〈ブックファーム—本の畑—をコンセプトにした館内〉

コンセプトは、農業が地場産業となっている北神地区の土地柄も踏まえて「Book farm」(本の畑)と決められました。

エコー・リラ南館の4階は駐車場に直結しており、買い物の途中で図書館に立ち寄ってもらうことが期待できました。そのため駐車場と商業施設をつなぐ通路部分にブックラウンジを設け、そこで本と触れ合うような仕掛けができないかと考えました。

賑わいの創出や人々の回遊性を高めることもテ

ーマとなっています。

また、北神図書館のロゴ、館内の書架案内図や書架見出しなど意匠に関しては、デザイン会社にご考案をいただきスタイリッシュなものになりました。

北神分館については平成31年3月24日(日)に閉館し、移転準備作業に入りました。移転作業を行いながら蔵書点検も同時に行い、4月1日(月)に施設の引き渡しを受け、移転作業も含めて本格的な新館開館準備作業に入りました。

4月23日(火)に、開館記念の式典を行い、久元神戸市長をはじめ関係者にスピーチをいただき、テープカット後に内覧会を行いました。

10時30分から、一般の供用を開始し、多くの利用者にご来館いただき、初日の図書館カードの登録者は110人を数えました。

開館後の利用状況は、最初の1週間で新規登録者数は754人(1日平均前年比16倍)、入館者数は16,538人(同約3倍)貸出冊数も前年比約2.2倍となりました。それ以後も、登録者数は落ち着いてきましたが、貸出冊数は11月時点でも前年比1.5倍という高い数字を保っています。

北神図書館に新たに加わった機能として、

- ・セミナー室を設け、講座の開催や見学などに対応可能となった
- ・フリースポットを設置し自習室・閲覧室の一部でWi-fiが利用できるようになった
- ・データベース用の端末も設置して、現在は3つのデータベースが閲覧可能となっている
- ・書籍消毒機、読み上げ機能付き拡大読書器を備えた

等が挙げられます。

また、エコー・リラ南館5階には「こべっこあそびひろば」も新たにオープンしましたので、そちらとの連携行事も考えていければと思っています。

今後も、利用者に広く親しんでいただける図書館となるように、努力していきたいと考えています。

## 「芦屋市立図書館・リニューアルオープン」

芦屋市立図書館長 丸尾恵子

芦屋市立図書館が打出小槌町から現在の伊勢町に新築・移転したのは、昭和62年7月のことでした。それから30年以上が経過し、老朽化した施設の長寿命化を図るため、平成30年10月から平成31年3月までの期間、大規模改修工事を実施しました。

今回の大規模改修工事では、屋根の防水工事、照明器具のLED化、トイレの改修（洋式化・オストメイト対応型トイレの設置）、授乳室の新設のほか、利用者から「本の場所がわかりづらい。」「読書スペースが足りない。」などのご意見をいただいていたことを踏まえ、開架室の案内表示の改良改修、閲覧専用カウンターの新設、ブラウジングコーナーの拡充といった読書環境の向上に努めました。



〈本を探しやすい書架表示〉

工事完了後は、移管していた約11万冊の本の搬入・排架作業や仮設窓口からの引っ越し作業など、タイトで慌ただしい再開準備を経て、昨年4月16日に、無事リニューアルオープンすることができました。

このリニューアルオープンを機に、図書館本館の開館時間を平日（火曜日～金曜日）は1時間30分、土曜日・日曜日・祝日は30分拡大しました。

こうして、新しく生まれ変わった図書館は、来館者から「森の中にいるみたいな図書館」「落ち着いた雰囲気の中で読書ができる」などの感想をいただいております。リニューアル前よりも特に中学生・高校生が利用している姿を見かけることが多くなりました。



〈広々とした児童開架室〉



〈ブラウジングコーナー〉

今後も情報拠点として、地域に役立ち、愛される図書館を目指して、引き続き事業の充実に努めていきたいと考えています。



〈明るい窓際の閲覧用カウンター〉

## 今思うこと

加古川市立中央図書館長 小浦 慎治

大阪出身の私が播磨で図書館の仕事をはじめて 35 年になります。司書の採用は当時から極めて少なく、何とか通勤できる距離であったことから受験しました。入職後は市内の 3 つの図書館の開設準備に関わり、最近では電子図書館を始めたり、また、B M を廃止させるような気の進まない仕事も経験しました。自らの足跡を概観してみると決して褒められた成果を伴ったとは思えず、何とかやってきたというのが正直な感想です。そして、結果として図書館業界に関わることができてよかったと思っています。

思い起せば、大学で石塚栄二先生に資料組織法、岩猿敏生先生に通論を学んだこと、後には弥吉光長先生の警咳に接し、MARC や図書館のシステム化以上に資料と人とを結びつける図書館員の動きが大切であると教えていただいたこと、さらに、仕事を通じてたくさんの人たちに支えてもらったことは幸運でした。

ところで、日本はイギリス、アメリカに次いで 19 世紀に図書館協会ができた三つの先進的な国であるのに、現在の図書館を取り巻く状況、住民生活との関わりや浸透など、どれも遅れをとっているように思えます。

私は図書館システムの機械化により、図書館員が分類や目録法という専門性を手放したことは失策であったと感じ、プロとしての専門知識と技術を確保しておかないと、自らの存在が希薄になるとの思いから、いろんなところに関心を寄せてきました。例えば著作権法、書誌学、出版文化などです。また、図書館の動向、法律等の改正など必要な情報にも気を配りました。これらはすべての図書館員に必要なことだと思います。

欧米の図書館では資料の利用を基本としつつも、教育・就職支援、映画やコンサート、ランチやカフェ、ビジネス会議、友人との会話、ゲーム…自宅のリビングのようにつろいで過ごしたり、また日常の相談窓口としてさまざまな役割を担い、利用されています。私たちも、目指すべきは市民が生活の一部として使ってもらえるような図書館にしていこうと思います。

誰かの役に立つことは生きがいや自らの存在の肯定につながります。利用者のためにある図書館の役割や活動は大切であり、素敵なことです。私たちは日々の業務において厳しい状況は続いても図書館員という仕事に誇りを持って、これからも図書館を支えていかなければなりません。そして、自分自身が素晴らしい人生を歩まなくてはならないと思っています。

## 第 1 回 研究集会報告

テーマ：「サインはもっと自由につくる」

開催日：令和 元（2019）年 12 月 6 日（金）

14 時 00 分～16 時 00 分

会場：兵庫県立図書館 第 2 研修室

講師：中川 卓美 氏（『サインはもっと自由につくる—人と棚とをつなげるツール』著者）



サインは N D C の見出し語のままだと無味乾燥になってしまいます。具体的な本を探している人にとっては便利ですが、目的をたずブラウジングする人にとっては、わかりにくく、棚の前で立ち止まることもありません。自由な発想で語りかけることばに変えるだけで、歩いているだけで楽しく、好奇心の広がる棚になるのです。

今回の研究集会では、愛荘町立秦荘図書館での経験を中心に、具体的なサイン作りを教えてくださいました。例えば 289 は「人びとが生きた歴史」、596 は「お料理すること、食べること」、「障害児教育」は「支援の必要な子どもの育ち」など、本を求める人の思い、背景にある「ものがたり」に共感することで、棚と人との関係をサインにしていく。難しく考えず、棚の前に立って、本のタイトルを見ながら考えるとよいと教えてくださいました。また、所蔵が少ないジャンルにも差し込みサインを入れることで、小規模図書館でも多様性、信頼性がアピールでき、選書する手がかりにもなるため、サインの量産化を推奨されました。

ワークショップでは、実際にサインを各自で作りました。「596.4 弁当」「379.9 家庭教育」「369.3 災害」「368.2 貧困」について、3分間ずつ考えて付箋に記入し、ホワイトボードに貼り付けました。様々なサインが考えられ、見ているだけで楽しいサインとなりました。

すべての棚のサインを変えるのは気が遠くなりますが、部分的に少しずつ変えていけばよいとアドバイスをいただき、自館のサインも見直してみようかなと考えるきっかけとなりました。

（いちかわ図書館 三木 美奈子）

## 兵庫県内図書館の動き 令和元(2019)1月～12月

- ・ **神戸市立図書館**  
 駅周辺返却ポストの再設置(JR灘駅, 市営地下鉄名谷駅, JR, 山陽電鉄垂水駅前) (1/25) / 西神中央文化芸術ホール等整備事業優先交渉権者の決定(西図書館移転予定 新西図書館は約3,330㎡, 約30万冊) (9/10)
- ・ **尼崎市立中央図書館**  
 配本所(ユース交流センター内)の開設(10/1)
- ・ **西宮市立図書館**  
 電話による予約受付を開始(2/13) / 「西宮市立図書館事業計画(令和元年度～5年度)」及び「子供読書活動推進計画(令和元年度～5年度)」(3/11)
- ・ **川西市立中央図書館**  
 市内小学校の1～3年生全員に読書記録ノートを配布(5月) / 高校生以下を対象とした図書POPの募集と展示(9～12月)
- ・ **猪名川町立図書館**  
 キッズフェスティバルに参加(移動図書館車と図書館イベントブース設置)(5/12) / 健康福祉まつりに参加「認知症の人の図書館利用術」本の展示、案内など(6/2) / ビブリオバトル(6/9, 12/1) / “認知症の人にやさしい図書館” イベント開催(9/21)
- ・ **あかし市民図書館**  
 ADEAG(デジタルアーカイブシステム)に「明石城関連絵図資料集」を追加掲載(2/13) / 「あかし春のホンまつり2019 図書館であそぼ!」と題し、各種の読書月間行事を実施(4/23) / 明石工業高等専門学校との連携講座「明石高専テクノカフェ」(全4回)の第1回目を開催(6/21) / 兵庫県点字図書館との連携イベント「バリアフリー読書ICT講座」(年4回)の第1回目を開催(6/24) / 「明石型生船調査資料集・生船写真帖」を編集・発行(9/1) / 明石ろうあ協会との連携イベント「手話で絵本の読み聞かせ」を開催(10/6) / あかし本のまち大使 上田岳弘氏のファンミーティング&サイン会を開催(11/2) / てんやく絵本ふれあい文庫との連携イベント「さわってたのしむ絵本の魅力」を開催(11/23) / 多文化センターまんまるあかしとの連携イベント「世界のお話会」(全3回)の第1回目を開催(12/8)
- ・ **小野市立図書館**  
 地球温暖化防止の取組と省エネ設備施設に改修した(館内証明をLED化、CO2排出量を削減する空調機器、自動制御機能エネマージシステム)(12/9) / 図書館システムをクラウドにし、システム・ホームページの更新を行った(12/9)
- ・ **加西市立図書館**  
 子どもと大人のためのおはなし会(10/26) / 図書館まつり(雑誌リサイクル、キッズ工作、筆文字アート「ゆるり書でしおりを作ろう」、ベルコンサート)(10/27) / 絵本講座「子どもたちに絵本の楽しさを伝えよう」(12/1)
- ・ **加東市立図書館**  
 開館時間の延長(10時～18時→10時～19時)(中央)(4/1) / 休館日の変更(毎週月曜日→毎週水曜日、祝日→祝翌日)(滝野)(4/1) / MARCの変更(OPL→トーハンマーク)(4/1) / 空調設備改修工事のため休館(中央)(5/7～7/12) / 加東市書店組合の解散により図書購入先を変更(7/1) / 全館に図書消毒機を設置(9/26) / マイナンバーカードを貸出カードとして利用開始(10/15) / エレベーター改修工事(滝野)(11/20～11/27) / 外壁調査(中央)(12月) / 図書・情報センター閉館(3/31)
- ・ **多可町図書館**  
 祝日開館(6/1) / 図書館システム更新(11/2)
- ・ **姫路市立図書館**  
 なつやすみ図書館フェスティバル(子ども映画会・親子で楽しむブックトーク・工作教室・ミニビブリオバトル・こわーいおはなし会など)(7/20～8/31) / ひめじ子ども読書週間(子どものための音読講座・児童文学講演会・プラネde星ものがたり)(10/27～11/9)
- ・ **上郡町立図書館**  
 子ども読書の日パンフレット・読書手帳配布(4/23) / 東備西播定住自立圏連絡便運行開始(7/1) / 「アフリカの大地から音とリズムのコンサート」(7/6) / 読書講演会あゆみ展(11/1～10) / 上郡町読書講演会 齊藤洋 講演会(11/10)
- ・ **太子町立図書館**  
 「太子町子ども読書活動推進計画」策定(3月)
- ・ **佐用町立図書館**  
 子ども読書講演会「絵本と子ども一心を育てるものー」(1/20) / 佐用町昆虫館協力「佐用のこんちゅう大集合ーこんちゅうかんの標本たちー」(7/20～9/1)
- ・ **豊岡市立図書館**  
 パートナー組織「みんなの図書館」設立(7/6)
- ・ **丹波市立図書館**  
 予約・リクエスト上限数改定(8点→10点)(4/1) / 3市(丹波市・朝来市・福知山市)連携事業として共同展示を実施(4/1)
- ・ **淡路市立図書館**  
 休館日の変更(祝日→翌祝日)(4/1)
- ・ **ひょうご労働図書館**  
 貸出冊数改定(5冊→10冊)(6/1)  
 内容については、「図書館年鑑2020年」編集に係る各加盟館からの情報提供を一部抜粋しました。

兵庫県図書館協会会報 No.116  
 令和2(2020)年3月1日 発行  
 編集・発行：兵庫県図書館協会  
 〒673-8533 明石市明石公園1-27  
 兵庫県立図書館内  
 Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500